

…編輯後記…

□同胞一億の感激を以て打鳴らされた皇紀二六〇〇年の鐘の音は、廿七世紀の曉を突いて響き渡る。

旭日渾然として、世界を照らすの時、急迫せる國際情勢は西歐東亞の新秩序を叫びつゝ、太平洋は正に怒濤化さむとして居る。……

□聖戰此處に五年、思ひを銃前に馳せ、只管、皇軍將士の武運長久を御祈り致します。

□我が祖山學院も、創立改稱後三十年を経過しましたが、既に中學は去る二月十二日付を以て認可を得、更に専門學校の昇格も、最早、時日の問題となつて居ります。

□誠に慶賀の至り、――三十周年記念として、此れに過ぎたものは無いのですが『棲神』を記念號として發刊し得た事も喜びと致します。

□その爲に新体制下公私御多忙中玉稿を賜りました諸先生に深く感謝の意を表します。

□唯、教頭先生の玉稿を頂けなかつたのが残念でしたが只今昇格問題に没頭中の事故、仕方なく、次號よりその御健筆は期待される事と思ひます。

□此れで、どうやら重任も果し得たわけですが、一重に部長今村先生の御指導と前幹事杉山兄、中込兄、及び結城君、黒澤君の御助力の賜と厚く御禮申上げます。  
(石川、上田)

昭和十六年二月廿八日印刷  
昭和十六年三月五日發行

山梨縣南巨摩郡身延町

編輯人

今村是龍

山梨縣南巨摩郡身延町

發行人

石川國武

甲府市柳町七十四番地

印刷人

青柳幸雄

甲府市柳町七十四番地

印刷所

芳文堂印刷所

山梨縣南巨摩郡身延町

發行所

祖山學院同窓會文學部